

履 歴 書

カ タ カ ナ	
氏 名	

1. 学歴（小学校から年代順に記入） ※在籍した学校は、日本国内外問わず全て記載すること。

学 校 名		所 在 地 (国・都市)	在学期間（西暦で記入）		年数
小学校			年 月～	年 月	
			年 月～	年 月	
中学校			年 月～	年 月	
			年 月～	年 月	
高等 学校			年 月～	年 月	
			年 月～	年 月	
日本語 学校			年 月～	年 月	
			年 月～	年 月	
専門 学校			年 月～	年 月	卒業 ☐ 中退 ☐
			年 月～	年 月	卒業 ☐ 中退 ☐
大学 短大			年 月～	年 月	卒業 ☐ 中退 ☐
			年 月～	年 月	卒業 ☐ 中退 ☐

2. 職 歴（技能実習生を含む） ※職歴がある場合のみ記入し、アルバイトは書かないこと。

勤務先名	所在地（国・地方）	職 種	在職期間（西暦で記入）
			年 月～ 年 月
			年 月～ 年 月

経費支弁誓約書

Written Oath for Defraying Expenses

名古屋経済大学長 殿

To President of Nagoya University of Economics

受験番号 / 学生番号

Exam Number / Student Number

※記入不要

【申請者 (Applicant)】

国籍 (Nationality)

氏名 (Full Name)

生年月日 (Date of Birth)

年 (Year)

月 (Month)

日 (Day)

私は、このたび上記の者が日本国に在留中の経費支弁者になりましたので、下記のとおり経費支弁を引き受けた経緯を説明するとともに、経費支弁について証明します。

I hereby agree to defray all expenses for the above person upon his/her stay in Japan. I will explain the circumstances of this agreement below and give an oath to defray these expenses.

記

1 経費支弁を引き受けた経緯 (How you became an expense payer.)

(申請者の経費支弁を引き受けた経緯及び申請者との関係について具体的に記載してください。)

(Please write below, in detail, the circumstances of your defraying the expenses of the applicant, and your relationship to the applicant.)

2 経費支弁内容 (Contents of the Oath for Defraying Expenses)

私 _____ は、申請者の日本国滞在について、以下のとおり経費を支弁することを証明します。また、申請者が在留期間更新許可申請を行った際には、必要に応じて送金証明書又は本人名義の預金通帳の写し等、生活費等の支弁事実を明らかにする書類を提出します。

I, _____, do hereby give an oath to defray the expenses of the above person's stay in Japan. In addition, when the applicant applies for permission to extend the period of stay, he/she will submit documents that clarify the fact of payment of living expenses, etc., such as a certificate of remittance or a copy of a bankbook in his/her name, as necessary.

(1) 学 費 (Tuition) 毎月 (monthly) ・ 半年ごと (semiannual) ・ 年間 (year) _____ 円 (yen)

(2) 生活費 (Living Expenses) 毎月 (monthly) ・ 半年ごと (semiannual) ・ 年間 (year) _____ 円 (yen)

(3) 支弁方法 (送金・振込み等支弁方法を具体的に書いて下さい。)

Method of Payment (Please explain in detail, e.g. bank transfer, money order, etc.)

年 (Year)

月 (Month)

日 (Day)

【経費支弁者 (Person defraying expenses)】

住所 (Address): _____ 電話番号 (TEL): _____

氏名 (Full Name): _____ 申請者との関係 (Relationship to applicant): _____

以上

在留資格（留学・家族滞在）に関する確認書

名前

次のうち、私が理解していることをチェックしました。

- ☐ 私は、在留資格（留学・家族滞在）の資格外活動（アルバイト）の範囲は、週28時間以内であることを理解しています。これを超えると、法律違反（入管法違反）になることを理解しています。
- ☐ 私は、在留資格（留学・家族滞在）の資格外活動（アルバイト）では、認められていない職種があることを理解しています。認められていない仕事をしたことはありません。
- ☐ 私は、名古屋経済大学に入学後、自分の資格外活動に関する違反のために在留資格が更新できなかった時、退学処分になり、帰国しなければならないことを理解しています。
- ☐ 私は、名古屋経済大学を卒業し、就職が決まったが、資格外活動の違反のために在留資格が更新できなかった時、在留資格がなくなり、就職ができなくなって、帰国しなければならないことを理解しています。
- ☐ *在留資格（留学）の方のみチェックしてください
私は、在留資格（留学）の交付の条件は、大学での学習を続けていることであると理解しています。
もし、私が、大学での学習を続けていない状態になった場合は、在留資格（留学）が取り消されることを理解しています。

以上の申告内容に間違いはありません。

申告日 202 年 月 日

サイン

CONFIRMATION ABOUT STATUS OF RESIDENCE (STUDENT • DEPENDENT)

Full name

Please read the following carefully and tick the box after you acknowledge each statement.

- ☐ I acknowledge that I am not allowed to work for over 28 hours per week under the Status of Student or Dependent.
I acknowledge that if I do not observe this rule, that is a violation of the law (Immigration Control and Refugee Recognition Act).
- ☐ I acknowledge that there are some businesses in which Student or Dependent status holders are not allowed to work.
I declare that I have never worked in such businesses in Japan.
- ☐ I acknowledge that in case my extension of the period of stay is not granted after the entrance into Nagoya University of Economics due to a violation of extra-status activities, I am to be expelled from Nagoya University of Economics and consequently I have to leave Japan.
- ☐ I acknowledge that in case my extension of the period of stay is not permitted due to a violation of extra-status activities, the status of residence is to be rejected, and that I am to be expelled from Japan even if I have graduated from Nagoya University of Economics and have received a job offer from a Japanese company.

The following box only applies to those who hold the status of (Student)

- ☐ I acknowledge that the requirement of the status of residence for a (Student) is to continue studying at Nagoya University of Economics. Therefore, I am aware that my status of residence as a (Student) is to be rejected if I no longer study at Nagoya University of Economics.

I hereby declare that I fully understand the statements given above and acknowledge that they are correct.

Date: Year 202..... Month..... Day.....

Signature

指導教員所見

年 月 日 作成

学校名	学生氏名	入学年月日

指導教員ご氏名 印

貴校よりご受験いただく学生さまについて、日頃ご指導いただいている先生方より、【日本語能力】および【学習態度】の2点について、下記の項目に基づき評価をお願い致します。
なお、ご提出いただいた所見は、本学の入試選考及び入学後の学生指導に使用し、それ以外の目的には使用致しません。

【日本語能力】

下記1～4の項目につき、下のA～Dのうち、学生さまの能力に近いものいずれかにチェックをお付けください。

能力	レベル			
大学での学習に必要な日本語能力～読むこと	A 入門	B 中級前半	C 中級後半	D 上級
大学での学習に必要な日本語能力～聞くこと	A 入門	B 中級前半	C 中級後半	D 上級
大学での学習に必要な日本語能力～書くこと	A 入門	B 中級前半	C 中級後半	D 上級
社会的な活動に必要な日本語能力	A 入門	B 中級前半	C 中級後半	D 上級

能力レベルの判断にあたり、下記の能力記述文のうち、学生さまができることにチェックをお入れください。チェック数の多いレベルを、その学生さまの能力レベルとしてご回答ください。

大学での学習に必要な日本語能力～読むこと

A 入門	中級読解教材を独力で読む際、未知の漢字・語彙・文法が多く、十分に理解できない。
	天気予報、広告、パンフレットなど、身の回りの日本語資料の内容はある程度理解できる。
	新聞の記事を独力で最後まで読むことは難しいが、見出しを読んでほしいの内容をつかむことはできる。
B 中級前半	中級読解教材を独力で読む際、未知の漢字・語彙・文法が一部あり、十分理解できないことがたまにある。
	天気予報、広告、パンフレットなど、身の回りの日本語資料から必要な情報が得られる。
	新聞・雑誌記事などの、少し長く専門性のある文章は、自分の興味のあるテーマであれば、ほしいの内容を理解できる。
C 中級後半	中級読解教材を独力で読む際、未知の漢字・語彙・文法はほとんどない。
	上級読解教材や、新聞・ネット記事などを読むとき、知らない漢字や言葉がある。
	自分の興味のある文の内容のほか、あまりよく知らないテーマの文も、内容はよくわからないことがあっても、読んで情報を取ってみようとする。
D 上級	日本語教材を読むとき、漢字・言葉・文法がわからないことはほとんどない。
	新聞・ネット記事などを読むとき、知らない漢字や言葉がときどきある。
	知らない言葉や漢字があっても、文全体のほしいの意味を読み取れる。
	科学技術、経済・法律・政治などの専門分野の、長い記事や書籍中の文章の1章を最後まで読んだことがある。

指導教員所見

大学での学習に必要な日本語能力～聞くこと

A 入門		日本語中級の聴解教材を使った、1～2分程度の短いニュースや日本人の話の聴解の際、語彙などの断片的な情報はとれるが、だいたいの内容をつかめないことが多い。
		日本語の先生方がクラス内で話すことは、ほぼ理解できる。
		一般の日本人に、必要な情報を質問したり、説明を聞いたりするとき、理解できず困ったり、自信がないため避けることが多い。
		テレビで、天気予報やニュースなどの短いものは、映像があればだいたいの意味が分かる。
B 中級 前半		日本語中級の聴解教材を使った、1～2分程度の短いニュースや日本人の話の聴解の際、だいたいの内容をつかめるが、細かい点は聞き落とすことがある。
		3分程度の少し長い話や、自分のよく知らないテーマの話を書くときは、だいたいの内容をつかめないことがある。
		日本語の先生方がクラスの中で話すことは問題なく聞き取れる。
		一般の日本人に、必要な情報を質問したり、説明を聞いたりすることには慣れているが、内容を聞き誤ることはある。
C 中級 後半		日本語中級の聴解教材を使った、1～2分程度の短いニュースや日本人の話の聴解の際、ほぼ問題なく内容をつかめる。
		日常生活の中で、テレビニュースなどの2～3分の短い話を聞く際、自分のよく知らないテーマの話でもだいたいの内容をつかめる。
		アルバイトや授業などで、5～15分ぐらいの長い説明や講義などを聞いて、説明の通りに働いたり、メモを取ったりすることは、正確ではないかもしれないが、できる。
D 上級		大学などの講義や、テレビ番組などで、少し専門的なニュースや説明などを聞く際、15～30分ぐらいであれば、だいたいの内容がわかる。
		話の内容を忘れないように、メモを取ることに慣れている。
		アルバイトや授業などで、日本人から話を聞く際、もしわからないことがあっても、自分から補足の質問をし、理解に努めることができる。

大学での学習に必要な日本語能力～書くこと

A 入門		日本語学習経験の中で、説明や意見述べのための作文の練習をしたことがほとんどない。
		「しかし」「また」「だから」などの書き言葉の基本的な接続詞を使い方を知っている。
		文をいくつも続けて、個人的な感想や日記などを書くことができる。
		文を段落に分けて整理して書くことについてまだ十分学習していない。
B 中級 前半		日本語学習経験の中で、説明や意見述べのための作文の練習をある程度したことがある。
		「しかし」「また」「だから」などの書き言葉の基本的な接続詞を使って、3～400字の作文を独力で書くことができる。
		文を段落に分けて整理した書いた方がいいことを知っており、3～4段落に分けた作文を独力で書くことができる。
		段落を作るだけでなく、段落ごとに内容を整理し、接続詞を使ってわかりやすい構成の文を書くことは、独力ではまだ難しい。
C 中級 後半		日本語学習経験の中で、説明や意見述べのための作文の練習を十分にしていることがある。
		「しかし」「また」「一方」「そのため」「ただし」「まず」などの書き言葉の接続詞を、作文の中で正しく使うことができる。
		わかりやすい説明文や意見文を書くために、独力で段落に分けて書くことができる。
D 上級		意見を述べるための、「～のではないだろうか」「と考えられる」などの書き言葉の文末表現を勉強したことがあり、正しくはないかもしれないが独力で使うこともできる。
		説明文、意見文、レポートなどを日本語で何度も書いたことがある。
		「しかし」「また」「一方」「そのため」「ただし」「まず」などの書き言葉の接続詞、「～のではないだろうか」「と考えられる」などの書き言葉の文末表現は、既に学習し、ある程度正しく使うことができる。
		これらのものを使って、A4で1～2ページの作文やレポートを書いたことがある。
		作文の読みやすさ、文法などの正確さなどを自分で推敲することについては、まだ十分できない。

指導教員所見

社会的な活動に必要な日本語能力

A 入門		日本での日常生活の中で、駅やスーパーなどでの短い放送を聞くと、言葉を断片的に聞き取ることができる。全体の内容はつかめないことがある。
		電車、買い物、役所での手続きなどのとき、インターネットやパンフレットなどの中の知っている言葉を読めることができるが、ほしい情報を見つけられないことがある。
		日本語の先生方と話すことはできる。アルバイトや家の近くなどで会う一般の日本人と二人で話すとき、あいさつ、簡単なやりとりはできる。
		身近な一般の日本人に、詳しい説明をしたり、自分の気持ちや意見などを言いたいとき、うまく伝えられず、話すことをあきらめることが多い。
		日本人と話すとき、話が途中で止まってしまうことがある。
B 中級 前半		駅やスーパーの中などの短い放送の内容はだいたいつかめる。
		電車、買い物、役所での手続きなどのとき、インターネットやパンフレットなどの日本語の情報から、自分がほしい最低限の情報を探し出すことができる。
		身近な日本人と二人で話すとき、正しくは話せないかもしれないが、相手が親切でゆっくり話を聞いてくれれば、お互いにだいたいわかりあえる。
		よく知らない人と話す際には、わかってもらえるかどうか、不安なことが多い。
		身近な人と話すとき、謝ったり、意見を言ったり、新しいやりかたを提案したりすることができる。
C 中級 後半		日本のテレビドラマを見ることもあるが、日本語だけでは詳しい内容がまだよくつかめない。
		駅・スーパーの中などでの放送の内容は十分わかる。
		郵便局や銀行などで、少し複雑な願いをするとき、正しく丁寧に話すことはできないが、自分の言いたいことを伝え、目的を達成することができる。
		日本人と話し合うとき、間違えたり、わからなかったりすることがあっても、自分で質問したり言い直したりして、お互いにわかり合えるようにすることができる。
		よく知らない人と話すのに、あまり心配はない。
D 上級		言い方が正しいかどうかわからなくても、まず言ってみて、日本人に直してもらえる。
		日本のテレビドラマを見ることもあり、だいたいの内容がわかる。
		駅・スーパー・店など、毎日の生活の中で行く場所で聞こえる放送は、ほぼ聞き取れる。
		初めてする手続きや、知らないニュース・場所などについて、インターネットやパンフレットなどを使って自分で調べることができる。
		役所、銀行、アルバイト先の人と、自分の問題について説明したり、どうしたらいいか話し合っ解決したりした経験が何度もある。
		よく知らない日本人に話すとき、わからないことがあっても、質問したり確認したりすればいいので、あまり不安がない。
		よく知らない人には丁寧に説明したり、よく知っている人にはすこし親しく話したりと、相手によって話し方を変えることができる。
		日本語で会議の司会をしたり、大勢で話すときに意見をまとめたりすることができる。

指導教員所見

【学習態度】

本学では、将来、大きく成長する可能性のある学生は、学習姿勢や生活習慣に関する下記の11の要素を一定程度備えていると考えます。ご受験いただく学生さまについて、日頃ご指導いただいている先生方より、各項目につき1～4のいずれかの評価をお願い致します。また、その評価の裏付けとなるような、学生の行動の具体例などがあれば、所見欄にご記入ください。

1	【留学に対する意欲】日本留学の動機や目的がはっきりしており、自分の留学を成功させようという意欲がある。	1 強く不同意	2 やや不同意	3 やや同意	4 強く同意
2	【指導の受け入れ】自分に対する指導は自分の成長にとってプラスになるものと受け止め、これに耳を傾け、自分の学習方略や生活態度などを少しでも改善しようと努力する姿勢がある。	1 強く不同意	2 やや不同意	3 やや同意	4 強く同意
3	【他者に配慮する】学習のために、自分だけでなく他の学生の学習環境を守ることが必要であるということを理解し、他の学生の学習を妨げる行動をしない。	1 強く不同意	2 やや不同意	3 やや同意	4 強く同意
4	【協力】学校の授業、学習環境の保持、課外活動など、自分が属する組織の運営に、その一員として協力する姿勢がある。	1 強く不同意	2 やや不同意	3 やや同意	4 強く同意
5	【新しいものへの姿勢】未知の知識、文化、習慣、日本人や外国人など、新しいものに対するオープンな姿勢があり、これに関心を持ち、進んで受け込んだり、これを自分に取り込もうとしたりする。	1 強く不同意	2 やや不同意	3 やや同意	4 強く同意
6	【計画性】自分の将来について考え、将来を良くするため、経費支弁なども含めた計画を立て、それに沿って行動しようとする姿勢がある。	1 強く不同意	2 やや不同意	3 やや同意	4 強く同意
7	【自助】自らの成長のためには、人に頼らず自分の力で努力することが必要であることを理解し、できるだけ自力でやってみようとする姿勢がある。	1 強く不同意	2 やや不同意	3 やや同意	4 強く同意
8	【周囲への関わりの意識】社会の中で自分がいろいろな人に関わっていることを意識し、目上の人や周囲の人たちに対して礼儀正しく振る舞おうという意識、自分を援助してくれる人たちに対して感謝する姿勢がある。	1 強く不同意	2 やや不同意	3 やや同意	4 強く同意
9	【努力の価値の理解】成長のためには努力が必要であることを知っていて、自らの成長や未来のために少しずつ努力しようとする姿勢がある。	1 強く不同意	2 やや不同意	3 やや同意	4 強く同意
10	【ルールを守ること】学校や社会のルール、制度や仕組みに関心を持ち、これに沿って行動することが自分にとってプラスになると理解し、進んで守ろうとする。	1 強く不同意	2 やや不同意	3 やや同意	4 強く同意
11	【社会性】新しい環境の中で友達、知人、支援者を作り、良い関係を維持し、困ったときに相互に助け合う関係を築くことができる。	1 強く不同意	2 やや不同意	3 やや同意	4 強く同意
集計（評価をつけた項目の数）					

所見

【学習態度】項目1～11の評定について、その評定の根拠となる、学生の学習態度や生活習慣上の具体的な事例があればぜひお書きください。用紙を追加していただいてもかまいません。

項目：

項目：

項目：

項目：

推 薦 書

名古屋経済大学 学長 佐 分 晴 夫 様

年 月 日

所 在 地

学 校 名

校 長 名



下記の者は、貴学当該学部への進学に適する者と認め、推薦いたします。

(フリガナ) 志願者氏名		
出席率	推薦時の直近1年間の出席率をご記入ください。 ※出席率が 100%の方は、初年度授業料の半額を免除します。 欠席等につき、やむを得ない事情がある場合はその旨をできるだけ詳細にご記入ください。	
推薦理由	(本人の学習歴や活動歴を踏まえた「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」に関する評価もあわせてご記入ください。)	
記載者	志願者との関係(例:クラス担任)	記載者氏名

※記載方法：手書き、パソコンなどでの入力 of のどちらでも構いません。